

第三次長野市子ども読書活動推進計画庁内調査の進捗状況

1 庁内調査にあたって

(1) 庁内調査とは

長野市では、読書に親しむ環境の充実、家庭・学校・地域の連携の推進、普及・啓発活動の促進、を基本的視点に、平成30年度に「第三次長野市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

計画では、目標となる指標の達成状況および具体的な取組の進捗状況について、毎年庁内調査を実施し、必要に応じ事業内容及び手法の改善を図ることとしています。

本調査は、これに基づいて、計画に掲げた取組の進捗状況を検証するものです。

(2) 点検の方法

【調査対象】 計画に掲げる事業・取組等（計58事業）を担当する主管課又は関係所属（計9所属）に調査を実施。

【調査項目】 数値目標と具体的な取組について、5ヵ年計画の2年度目である令和元年度の実績と、現況・課題、今後の方向性を調査。

2 進捗状況（令和元年度実績）

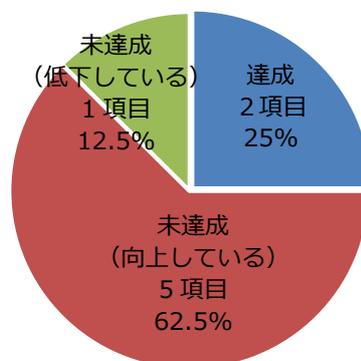
(1) 数値目標

指標8項目のうち、2項目で目標を達成し、5項目で目標に近づいています。

指標8項目のうち、2項目で目標を達成し、5項目で計画策定時の値を上回り目標に近づき（計画策定時の値を一部上回ったものを含む）、1項目で計画策定時の値を下回っています。

目標を達成または目標に近づいた項目が8割以上となっています。

数値目標達成状況



(達成状況) ◎…達成、○…近づいている、△…低下している

No.	担当所属	指標項目	計画策定時 現状値 (H28年度)	R4年度 目標	R元年度末 実施状況	達成状況
1	家庭・地域 学びの課	「おひぎで絵本」事業 での絵本配付率	92.1%	96.0%	92.4%	○
2	学校教育課	読書を「好き」と答え た児童・生徒の割合 (小6・中3)	小6 80.1% 中3 72.9%	小6 90.9% 中3 80.7%	小6 78.6% 中3 73.6%	○ (一部)
3	学校教育課	一日あたり読書時間が 「10分以上」と答え た児童・生徒の割合 (小6・中3)	小6 65.5% 中3 50.7%	小6 68.5% 中3 53.7%	小6 67.0% 中3 55.4%	○
4	長野図書館 南部図書館	市立図書館における児 童書の蔵書冊数 (0～12歳一人あたり)	209,482冊 (4.89冊)	227,482冊 (5.96冊)	231,160冊 (5.85冊)	◎
5	南部図書館 家庭・地域 学びの課	図書館分室における児 童書の貸出冊数	20,830冊	21,730冊	22,950冊	◎
6	長野図書館 南部図書館	市立図書館おはなし会 参加者数	2,610人	2,832人	2,641人	○
7	家庭・地域 学びの課	読み聞かせを行う市立 公民館数(割合)※	25 (86.2%)	29 (100%)	24 (82.8%)	△
8	学校教育課	「学校図書館図書標 準」達成学校数の割合	小学校 96% 中学校 75%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 98.1% 中学校 88.0%	○

※交流センターを含む。

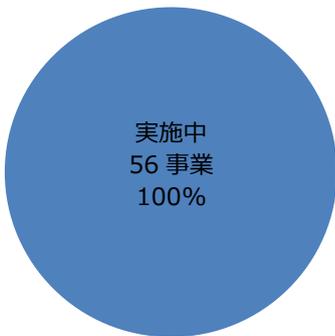
(2) 具体的な取組

具体的な取組 58 事業、すべての事業を実施しました。

具体的な取組 58 事業、すべての事業を
実施中です。

※調査結果詳細は、別添「第三次長野市子ども読書活動
進捗状況調査結果」を参照

事業進捗状況



実施中
56 事業
100%

施策分類	進捗状況
〈施策 1〉 家庭における子どもの読書活動の推進	実施中 7/7
〈施策 2〉 教育・保育施設等における子どもの読書活動の推進	実施中 6/6
〈施策 3〉 学校等における子どもの読書活動の推進	実施中 15/15
〈施策 4〉 市立図書館等における子どもの読書活動の推進	実施中 22/22
〈施策 5〉 関係機関の連携と普及啓発の促進	実施中 8/8

3 考察及び課題

数値目標：8割以上が改善傾向。

- ・ 8項目中7項目が、目標を達成または目標に近づいており、目標の達成に向けて大きく前進していると考えられます。
- ・ 計画策定時の値を下回った1項目「読み聞かせを行う公民館数（交流センターも含む）」については、それぞれの地域の実情に応じ、達成に向け具体的な取組内容の見直しと手法の改善を行っていく必要があります。

具体的な取組内容：58事業すべての事業を実施中。実施中の取組みについては、関係機関や民間団体との連携をより深め、また、ICTを積極的に活用した周知啓発活動を行いながら、より発展的に展開していく時期となっている。

○関係機関や民間団体との連携・協力について

- ・ 小中学校（学校図書館）と市立図書館では、授業内容に合わせた団体貸出などにより連携が進められており、平成30年度の実績値（小学校50.0%、中学校62.5%）と比較すると、公立図書館を利用する小学校が大きく増加しています。団体貸出予約や流通方法については課題があり、具体的な方策については検討段階にあるほか、学校司書と公立図書館担当者の情報共有を目的とした定期的な情報交換会も検討されています。
- ・ 小中学校、公民館・交流センター、保育園、放課後子どもプラン施設では地域の読み聞かせボランティアや読み聞かせのできるアドバイザー、PTA等と連携して読み聞かせを実施しています。市立図書館における読み聞かせボランティア養成講座は定員を上回る受講を得ており、今後読み聞かせボランティアグループの新規結成も期待されることから、各施設が地域のボランティア等との連携をより深め、活躍の場を広げていくことで、子どもたちへの読み聞かせの機会をより増やすことが出来ると考えられます。

○ICT（情報通信技術）の活用について

- ・ ブックリストや行事等について、市民への周知の拡大方法が課題として挙げられています。ホームページのほか、SNSなどインターネットを積極的に活用した情報発信を検討していく必要があります。

○新規取組について

- ・ 「家族の関わりを促進するための啓発活動の実施」については、市立図書館において「おはなし会」や「お楽しみ会」を実施しているほか、親子の学びを目的としたイベント「親子わく

わくフェスタ」において朗読劇等を実施し、家族が本と関わることの楽しさを共に体験することで家庭における本を通じた家族の関わりを増やすことを目的とした催しを行っており、今後もより市民のニーズに合致した催しを企画・実施していく方針です。

- ・「ふるさとや世界各国の文化等を理解するためのテーマ本の選定・コーナーの設置」については、小中学校、市立図書館、市立公民館・交流センターにおいて「郷土の民話」や「ながのを知ろう」、「国際理解」といったテーマを設けて取組を行っています。長野冬季オリンピック・パラリンピックの開催都市として、2021年に実施予定の東京オリンピック・パラリンピックを意識し、子どもたちが読書を通して多文化共生への理解を深めるための取組内容を発展的に検討していく必要があります。